

日本英語教育史学会 会報

279

2017 年 2 月 10 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒120-8551 東京都足立区千住旭町 5 番
東京電機大学工学部英語系列 河村和也研究室
tel: 03-5284-5641 fax: 03-5284-5699
e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)

ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873

三菱東京 UFJ 銀行千住中央支店【普通】0997182

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第261回研究例会報告

2017 (平成 29) 年 1 月 7 日 (土), 東京電機大学東京千住キャンパス (東京都足立区) において第 261 回研究例会が開催されました。参加者は 29 名でした。

はじめに研究発表が行われ, 上野舞斗氏 (和歌山大学大学院) が「発音学者としての岡倉由三郎」というテーマでお話しされました。続いて惟任泰裕氏 (神戸大学大学院) を指定討論者に迎え, 「自著を語る」として森悟氏 (鳥取県立米子南高等学校) による「武信の出会った人々: 森悟著『武信由太郎伝』を素材に」の発表が行われました。司会は藤本文昭氏 (横浜翠陵高等学校) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は上野氏, ②は森氏及び惟任氏の発表への感想です)。

◇ ◇ ◇

◆正直なところ, 発表のテーマであった 2 人について名前しか存じ上げていなかったの、生き方や教育理念などの人物像を詳しく知ることができ、非常に勉強になりました。特に印象に残ったのは、武信由太郎が言ったとされる「特別、英語を勉強していない。ただ英文を読み、英文を書くだけだ。」ということばでした。英語を学習することは何か特別なことだと思いがちですが、毎日コツコツと英語に触れることは全く特別なことではなく、英語学習者であれば当然なことであると改めて気づかされ、今まさに英語を学んでいる私の英語への向き合い方が大きく変わりました。今回のご著書のように、日本英語教育史の重要人物についての伝記を編みなおしたものに触れることで、その人物を知らない世代の学習者であっても、その人物の生き方から自分を見つめなおす機会にもなるので、今回有意義な時間を過ごせたと思います。 (ninetails)

◆①岡倉の発音表記について詳細に研究されて良い発表でした。岡倉のカナ表記が完成した 80 年近く前に平仮名や片仮名や合わせ文字等の使い分けに感銘しました。

個人的に気になったのは満洲侵略後中国語ブームの中でラジオ放送での「満洲語」の学習が始まりますが、岡倉が完成した 1935 年以前にカナ表記で (有声音・無声音の使い分けで) 中国語のテキストは記されてます。岡倉にその影響があったか気になります。 (huiyi)

◆①岡倉由三郎氏は 1868 年～1941 年までの時期に活躍されたことを知って、Jones 音声学以前にも、H. Sweet など、視野がひろくなり、有益なご発表でした。また当時の岡倉先生が国際レベルにおられたことを同じ日本人として誇りに感じました。また、岡倉先生が子音ではなく「父音」と呼ばれていたことなどをさらに検討してみたいと思います。

(Taxi Smoker)

< 発表を終えて >

上野 舞斗 (和歌山大学大学院)

この度は院生の私に発表の機会を与えて下さり、心から御礼申し上げます。

本発表では、岡倉由三郎研究のうち、研究があまりなされていないと思われる発音学者としての側面を、少しでも明らかにしたいと考えました。

その中で見えてきたのが、日本語学者でもあった岡倉の「教育的まなざし」です。例えば、初学者に対しては、当時としては異例の「父音(子音)から母音へ」という指導手順をとっています。これは、子音が母音に比べて音価が一定で学び易いという、学習者への配慮によるものだと考えられます。他にも、日本語学の知見を活用して個々の音を説明したり、初学者に対してのカナ表記を効果的に活用したりしています。

本研究は緒についたばかりであり、今後の課題は山積みです。その中で、特に気になっているのは、岡倉にとって、カナ表記は「英語発音指導」の手段だけだったのかという点です。岡倉は晩年、世界の言語である英語と大日本帝国の言語である日本語とを関連させる必要があると述べています。これを考えると、カナ表記は外国人に対する「日本語発音指導」の手段でもあったのではないかと推察されます。これを含め、研究をさらに進めていきたいと思えます。

末筆ながら、私の拙い発表に大変貴重なコメント、ご指摘を与えて下さいました皆様方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後ともご指導下されれば幸いです。



◆①これまであまり正面きって取り上げられることのなかった岡倉由三郎の音声学者としての側面を分析されたご発表で、興味深くうかがいました。特に「教育的まなざし」の観点からの分析が行われているところに日本英語教育史学会における研究であることを強く読み取りました。ただ、これからのご研究課題として、この岡倉を英語音声教育史の体系中にどう位置づけるかというようなことをお考え頂いたらと思います。(Dragon)

◆①岡倉由三郎がどのようにして発音指導を行おうとしたかを学びました。子音を先に教え、母音は子音を教えた後に扱うという考えを持っていたことや、カタカナにアポストロフィーのようなもの(overstrike notation)をふって子音を表そうとしたことなどを学びました。英語音声のカナ表記に関しては、「エ」と「ア」や「エ」と「ウ」を組み合わせた合字(ligature)

の音標文字で表そうとしたというところから、目に見える形にすることを大切にしていたのではないかと思います。(aqua)

◆①K や P などの発音のやり方について日本語の単語を例にとるなどをし、レコードなども簡単に手に入らなかった時代にいかにしてテキスト上で学習者に発音方法を教えるか試行錯誤していた様子がわかりました。当時と比べて今は CD やテレビ、ネットで簡単に学べるのに活用しきれていない自分は甘じと感じました。(flyingbird)

◆①岡倉の発音指導について、その「教育的まなざし」とは何か、興味深くうかがいました。ご発表にあった“The Y・O・K Alphabet”について関心を持ちました。岡倉は国語であれ英語であれ、「規則性」を大切にする研究者／教育者であったのだと改めて感じました。さらなるご研究に期待しております。(Horse)

<発表を終えて>

森 悟 (鳥取県立米子南高等学校)

武信由太郎 (たけのぶよしたろう) は不器用な男であった。英語以外に関心はなく、無口な上に訥弁でもあった。

同時代を生きた斎藤秀三郎が赫々と燃える太陽であるとするならば、武信はまるで月のような存在であった。夜道を歩く旅人の足元を照らすがごとく、英語力の向上を願う学生たちに静かな光を送り続け、その生涯を終えていった。

『英語青年』や『英語世界』の和文英訳欄を担当し、そこに送られてくる英文を黙々と添削していった。どんな拙い英文でも見捨てることはなかった。可能な限り原文を活かそうとした。「先生は他の文章を可成生かし数語の加筆、添削に依って之を立派に仕上げらるる...有形無形に先生の啓発を受けたものは蓋し尠少でなかろう」という小田鶴次郎の言葉がそれを証明している。

Japan Times, 『武信和英大辞典』, 『英語青年』, 『英文日本年鑑』等々、偉大な仕事を成し遂げた英学界の泰斗でありながら、それを誇らしげに語ることは終生なかった。

今回はそんな武信の人生に影響を与えた人々について語らせていただきました。皆様のご好意に心から感謝申し上げます。



◆②武信由太郎は教員でありながら話すことを得意とせず、それをも凌駕する圧倒的な英語力があつたということが印象に残りました。先生方のお話を聞く中で、学生たちをあつと言わせてしまうほどの学力を身につけるために行った努力は計り知れないもので、日々の積み重ねが大事であることを非常に痛感しました。また、武信が出会って刺激を受けたり、影響を与えた人々の紹介を聞き、人と人とのつながりの重要性に改めて気づきました。 (flyingbird)

◆②武信由太郎が人生の中で出会った人々を取り上げられ、森先生の山田雅人ばりの語りを通して武信という人物がどのような人であったのかを知ることができました。そのなかで印象に残ったのは、早稲田大学での和文英訳の指導をしていた際に、口下手だった武信が英文を実際に書き込み校正することでその英語力を示した、というエピソードです。事実彼の英文を見た伊地純正はじめうさ方の学生たちは英文の見事に圧倒され、ぐうの音も出なかったという箇所から、彼の英語力が光っていた

のだと思いました。 (aqua)

◆②武信の人間性を知る上で良い発表を聞かせて頂きました。有難うございました。

しかし今回の発表は武信の出会った人々と武信との関わりの中で英語との関係がどう関わっているのか、ポイントを絞り話されて頂くところの研究会での意義が高まったのではないかと思います。指定討論者からの問答は考えさせられるテーマで興味深いものでした。次の発表を是非聞かせて頂きたいと思います。

(huiyi)

◆②郷土の先人英学者の伝記をまとめるに際しては必ずしも地元だから有利だということにはならない訳で、本日のご発表からは郷土愛プラス情熱でもって執筆されたことがよくうかがわれました。欲を言えば執筆の裏話などももっと伺いたかったと思います。また、指定討論者の方も、しっかりと読み込んだ上で、質問事項を整理されていて、お蔭でフロアの方とのやりとりも活発に行われ、何よりでした。

(Dragon)

<発表を終えて>

惟任 泰裕 (神戸大学大学院)

この度の例会では、学会最若手の一人ながら、「自著を語る」の指定討論者を務めさせて頂きました。森先生による「語り」は、武信の人生や出会った人々を偲ばせる素晴らしいものでありましたが、私が指定討論者の責務を十分果たしていたかという点では悔いの残るものであったと思います。私は、森悟先生による『武信由太郎伝』を拝読し、質問・論点を数点提示したのですが、論点を絞ってしまうのではなく、質問を投げかけたうえで自由な質疑にした方がより有益な時間となったのではと感じます。ただし、指定討論者としてそれで良いのかということは別として、論点を絞ることで、自分が日ごろ考えている（悩んでいる）ことについて、先生方からのご意見を頂戴できたという点では大変有意義な時間を送ることができました。また「専門家」としてのコメントは全くもって不十分でありましたので、今後さらに修業を積んでいきたいと思っております。最後になりましたが、若輩の指定討論者に対して嫌な顔ひとつせずお付き合いくださった森先生をはじめ、貴重な勉強の機会を与えてくださった学会の先生方にお礼申し上げます。



◆②根雪に閉ざされる鳥取で膨大な英和辞典を創り上げたことに敬意を表します。旭川の町外れでも、一流の英語の研究者になった田中菊雄のことを思い出しました。(Taxi Smoker)
◆②物語りを読むような情感のこもった見事な語りで、武信及び彼にまつわる人物の姿がくっきりと浮かび上がりました。例会発表でこれほど感動したことは初めてです。胸がジーンと熱くなりました。このまま録音して何度も聴き

たくなるほどの語りでした。(みかん舟)
◆②武信の出会った人々についての詳細な調査結果を通じ、武信像を浮き彫りにするご研究に感銘を覚えました。森先生の語りはまるでラジオドラマのようで、すっかり惹き込まれてしまいました。また、つづく伝記・人物史をめぐる討議も有意義でした。ありがとうございました。(Horse)

>> 事務局より

>> 理事会を開催

第 261 回研究例会に先立ち、1 月 7 日 (土) 正午より東京電機大学英語系列会議室において 2016 年度第 1 回定例理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

(1) 第 33 回全国大会 (福島大会) の概要について

来年度の全国大会は本年 5 月に福島県郡山市の日本大学工学部で開催されることを決めました。詳細は 6, 7 ページをご覧ください。

(2) 投稿論文の審査結果・学会賞候補について

今年度の審査結果ならびに学会賞の候補について、論文審査委員会より報告を受けました。その内容は 5 ページ掲載の通りです。

(3) 2017 年 3 月研究例会の会場について

四天王寺大学あべのハルカスキャンパスに代わる会場を関西方面で探すこととなり、情報を提供し合いました。その後、8,9 ページに掲載の通り、開催可能な会場が見つかっています。

(4) 2017 年度研究例会の計画について

10 ページに掲載の通り、新年度の例会スケジュールを確認しました。

(5) その他

『日本英語教育史研究』投稿規程および投稿論文標準書式の一部を改訂することとしました。また、研究例会発表規程も一部を改訂します。いずれも、3 月の理事会で正式に決定し 5 月の会員総会に報告する予定です。(文責：事務局長)

)) 論文審査委員会を開催

2016 年度第 2 回論文審査委員会は、去る 1 月 7 日 (土) 午前 10 時より東京電機大学英語系列会議室において開催されました。投稿された 8 本の論文について審査したところ、2 本の論文が修正のうえ掲載、4 本の論文が研究ノートとして掲載との結果となり、今後、期限までに最終稿の提出されたものについては学会誌『日本英語教育史研究』第 32 号上で発表されます。学会誌は 5 月の全国大会に合わせて刊行の予定です。(文責：編集委員長)

)) 会費納入について (お願い)

日本英語教育史学会の会計年度は 4 月より翌年の 3 月までです。今年度および昨年度の会費を未納の方は年度末までにご送金くださいますようお願い申し上げます。未納のみなさまへのご案内は順次お届けしておりますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

なお、2 年連続して会費の納入がない場合には退会の手続きを取らせていただくことになっております。該当の方には年度末までに連絡申し上げますので、よろしくご対応くださいますようお願いいたします。

会 費 一般：5,000 円／学生：3,000 円
送金先 ゆうちょ銀行：(振替口座) 00150-3-132873
三菱東京 UFJ 銀行千住中央支店：(普通口座) 0997182
*口座名義はいずれも「日本英語教育史学会」です。

日本英語教育史学会第 33 回全国大会 (福島大会) 参加および発表申込について

2017 年度の全国大会を次の通り福島県郡山市で開催します。みなさま、どうぞふるってご参加ください。

期 日：2017 年 5 月 20 日 (土)・21 日 (日)

会 場：日本大学工学部 (福島県郡山市田村町徳定字中川原 1)

- ・土曜日の記念講演に、講師として立教大学名誉教授の鳥飼玖美子先生をお招きいたします。演題は「英語教育論争から考える (仮)」です。先生のお話がうかがえるまたとないチャンスかと思えます。どうぞ奮ってご参加ください。
- ・会員のみならず多数のご発表をくださいますようお願いいたします。発表時間は質疑応答を含めて 25 分間です。例年通り、発表のセッションは土曜日の午後および日曜日の午前に設定しますが、ご希望の数が多い場合には日曜日の午後にお回りいただくこともあります。発表時間帯についてのご要望がございましたら、お申し込みの際にお知らせください。
- ・大会参加費は、一般会員 2,000 円、学生会員 500 円、非会員は無料です。
- ・懇親会は 5 月 20 日 (土) に郡山市内で開催される予定です。会費は一般 7,000 円、学生 6,000 円を予定しています。席の準備の都合上参加申し込みと同時に事前にお知らせください。
- ・大会プログラム、懇親会の会場、必要経費の納入方法など、詳細は次号の会報をお待ちください。

(1) 日本大学工学部への交通について

- ・鉄道をご利用の場合：

東北新幹線郡山駅下車。東京駅より郡山駅まで「やまびこ」で約 80 分。郡山駅を通過する新幹線もありますのでご注意ください。

- ・飛行機をご利用の場合：

福島空港より郡山駅までリムジンバスで約 40 分。

* 郡山駅前から「徳定」行のバスで「日本大学」下車 (所要時間：約 20 分)。

* 日本大学工学部のウェブサイトもご参照ください (<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/access/>)。

(2) 宿泊について

- ・宿泊をご希望の方は各自でお手配ください。

以下の 3 施設については直接施設に電話して「日本英語教育史学会全国大会」とお伝えいただければ特別料金にて宿泊が提供されます。いずれも駅より徒歩数分です。アクセスと泊まり心地はよいものです。

- ・郡山ビューホテルアネックス (JR 郡山駅より徒歩約 5 分)
通常料金：12,960 円→特別割引料金：8,427 円 (朝食付き)
TEL：024-924-1111
URL：<http://www.k-viewhotel.jp/>
- ・郡山ビューホテル (JR 郡山駅より徒歩約 8 分)
通常料金：9,720 円→特別割引料金：6,656 円 (朝食付き)
TEL：024-939-1111
URL：<http://www.k-viewhotel.jp/>
- ・ホテルプリシード郡山 (JR 郡山駅より徒歩約 5 分)
通常料金：11,198 円→特別割引料金：9,178 円 (朝食付き)
通常料金：10,098 円→特別割引料金：8,078 円 (朝食なし)
TEL：024-925-3411
URL：<http://www.precede-k.co.jp/>

- *いずれもホテルの Web サイトや各宿泊サイトから手配されると特別割引は適用されません。
- *早めに申し込む場合はこれよりお得な Web 割もあります。詳しくは上記 URL をご参照ください。

◆大会参加申込について

大会参加・発表希望者は、研究発表や懇親会参加の有無ほか必要事項を明記し、大会事務局まで 3 月 14 日 (火) 必着にてお知らせください (担当: 拝田)。

- * 郵送版の会報をお読みのみなさまには、この会報に「第 33 回全国大会参加申込書」を同封しております。郵便はがきとなっておりますので、ご投函の前に 52 円切手をお貼りくださいますようお願い申し上げます。
- * 電子版会報をお読みのみなさまには、別途、全国大会のご案内を電子メールで差し上げます。出欠については、そちらのメールにご返信くださいますようお願いいたします。

◆発表予定者をお願い

大会での発表をお申し込みの方は、発表要旨 (レジュメ) を 1,000 字を目安にまとめ、3 月 31 日 (金) 必着にて郵便または電子メールで以下までお送りください。要旨集のレイアウトはパソコンを用いた簡単なものとなりますので、複雑な組版をご使用の場合は B5 判の印刷原稿 (版下) を郵送してください。

※大会参加申し込み、および発表要旨 (レジュメ) の送付先:

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前 3-2-1
四天王寺大学教育学部 拝田研究室内
日本英語教育史学会第 33 回全国大会 大会事務局
e-mail: tufs3haida@hotmail.com

訃 報

本学会顧問で神奈川大学名誉教授の出来成訓先生におかれましては、かねてより病氣療養中のところ 1 月 11 日午後 9 時に還浄されました。

先生は本会の設立に力を尽くされ、初代会長として長きにわたり会をお支えくださるとともにその発展をお見守りくださいました。ここにそのご威徳を偲び、心よりお悔やみ申し上げますとともに謹んでお知らせいたします。

日本英語教育史学会

出来先生の履歴と業績については 5 月に刊行予定の『日本英語教育史研究』第 32 号に掲載の予定です。また、会報では次号より先生を追悼する特集を企画しております。追悼文をお寄せくださる方は編集部までご連絡ください。

日本英語教育史学会初代会長・出来成訓先生への感謝

日本英語教育史学会会長 江利川 春雄

日本英語教育史学会初代会長・神奈川大学名誉教授の出来成訓(でき・しげくに)先生におかれましては、2017年1月11日、逝去されました。享年80歳でした。ここに生前の学恩に感謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

出来先生は、1984(昭和59)年に同志と共に日本英語教育史研究会を創設され、1987年に学会に発展させ、初代会長の重責を2000年まで足かけ17年間担われました。その後も名誉会長、顧問、論文審査委員長を歴任され、献身的に私たちの学会を指導してこられました。

それは、言葉の真の意味で献身でした。先生が会長在任中の学会紀要の出版費用は、すべて先生の私費によるものでした。その間は査読委員会も編集委員会もまだ存在せず、先生はそれらの仕事を一人で担っておられました。

1994年2月、私は締切を過ぎてても紀要原稿が未完成でした。出来先生から頂いた催促の電話は忘れられません。「そろそろお出し願えませんか」。柔らかな、慈愛に満ちた口調で、心に沁みました。急ぎ提出した40ページもの論考を、出来先生は全文掲載してくださいました。費用のご負担も考えると、身が縮む思いです。先生は大らかに私たち後進を育ててくださいました。

2008年からは45歳以下の会員を顕彰・支援するために「日本英語教育史学会賞」が創設されました。副賞の基金として100万円を学会に寄託されたのも、出来先生でした。先生の思いに応えるために、会員の奮起を願ってやみません。

出来先生はライフワークとされた斎藤秀三郎研究の文献資料251点を、他の貴重な英語教育史資料と共に、2004年に斎藤の郷里である仙台の宮城県立図書館に寄贈されました。「出来文庫」として公開されています。他の蔵書の多くも、私を含む会員に無償でお贈りくださいました。

出来先生は反骨の人でした。2000年に伊村元道第二代会長の下で、私は副会長として日本学術会議への学会登録の任に当たっていました。出来先生は言われました。「学問研究は自由なものだろう。それをなぜ日本学術会議のような権威に認めてもらおうとするんだい」。強烈なパンチでした。学問研究の根幹に関わる問いかけでした。私はよろけながらも、「大学の教員採用や昇進の際に学術会議登録団体か否かが問われる時代に入ったんです」と申し上げ、なんとか理解を得ました。出来先生の背骨を貫く古き良き早稲田の在野精神に、爽やかな感動を覚えました。文科省官僚の違法な天下りを受け入れた今の早稲田を見たら、先生はさぞお怒りでしょう。

出来先生の著作は膨大です。日本英語教育史の研究を中心に、確認できただけでも著書13(共編著を含む)、学術論文57、その他の論考285の合計355篇に及んでいます。それらの中に、先生は生き続けておられます。

出来先生から大いに学び、日本英語教育史研究を盛り上げていきましょう。それこそが、学会の生みの親・育ての親であった出来先生の学恩に報いることだと思います。

出来先生、本当にありがとうございました。どうぞ、安らかにお眠りください。

第 262 回 研究例会のご案内

日 時： 2017 年 3 月 18 日 (土) 14:00～17:00

場 所： 真宗教化センター しんらん交流館 (京都市下京区) 会議室 E

〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下上柳 199

(会報等で掲載されていた場所から変更されました。)

研究発表 「旧制実業専門学校の英語入学試験問題」

惟任 泰裕氏 (神戸大学大学院)

【概要】 今日、大学入試のあり方が盛んに議論されている。英語教育に関しては、使えない「受験英語」という批判も根強い。しかしながら、これらの事柄について、歴史的な検討が十分になされているとは言えない。そこで本発表では、旧制実業専門学校の英語入学試験問題について、その実態と特質を明らかにする。発表に際しては、発表者が問題集等から復刻した試験問題や受験雑誌に掲載された言説を史料として用いる。

自著を語る 「古きをたずね、新しきを知る：中村捷編著『名著で学ぶ これからの英語教育と教授法』を素材に」

提案者：中村 捷氏 (東北大学名誉教授)

指定討論者：川嶋 正士 (日本大学)

【概要】 英語教育の名著 (外山正一『英語教授法 附正則文部省英語読本』, 岡倉由三郎『英語教育』, O. イェスペルセン『外国語教授法』, H. スウィート『言語の実際的研究』) を通して、碩学の言語観、教育観に基づく外国語教授の基本問題と外国語学習の基本問題を学ぶ。具体的問題のいくつか (訳読, 暗唱, 音読, 会話, 語彙, 文法, 教師, 英語教育を始める時期など) を取り上げて、その基本問題を検討し若干の解説を加える。それによって、教師一人一人が自分自身の教育観、言語観に基づく自己の教授法を改善、発展させるための示唆を得られることと思う。

参加費： 無料

問合先： 日本英語教育史学会 例会担当 (reikai@hiset.jp)

◆例会終了後に懇親会を行います。こちらにも奮ってご参加ください。

★会員外の方の研究例会へのご参加を大いに歓迎いたします。

EDITOR'S BOX 今シーズンは年末まではそうでもなかったのですが、年明けから大雪の日が増えてきました。雪かきが1回だけでは追いつかない日や、水道が凍って使えなくなるトラブルに見舞われるなど、改めて北国の冬の厳しさを実感しています。／水道が使えなくなったのは2011年の東日本大震災以来のことですが、水のペットボトルの備蓄本数など、震災直後は高かった非常時へ備える意識が薄れていたことを今回改めて実感しました。／救いは、数年前の大雪のシーズンと違い、太陽が出ている日もあるので、気持ち的にはそれほど暗くならないことです。春が来るのを楽しみに待ちたいと思っています。(若)

【会場案内】 (東本願寺 website: <http://www.higashihonganji.or.jp/about/access/pdfs/map.pdf> より)



【交通案内】

- ・ JR 京都駅中央改札口より徒歩 12 分
- ・ 市営地下鉄烏丸線・五条駅 8 番出口より徒歩 3 分
- ・ 烏丸六条バス停より徒歩 1 分

)) この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 33 回全国大会 2017 年 5 月 20・21 日 (土・日) 福島県郡山市で開催予定
- ◆ 第 263 回研究例会 2017 年 7 月 15 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 264 回研究例会 2017 年 9 月 16 日 (土) 広島で開催予定
- ◆ 第 265 回研究例会 2017 年 11 月 18 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 266 回研究例会 2018 年 1 月 20 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 267 回研究例会 2018 年 3 月 17 日 (土) 関西で開催予定

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上の 4 点を明記の上、発表希望月の前々月 10 日 (7 月発表希望であれば 5 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp